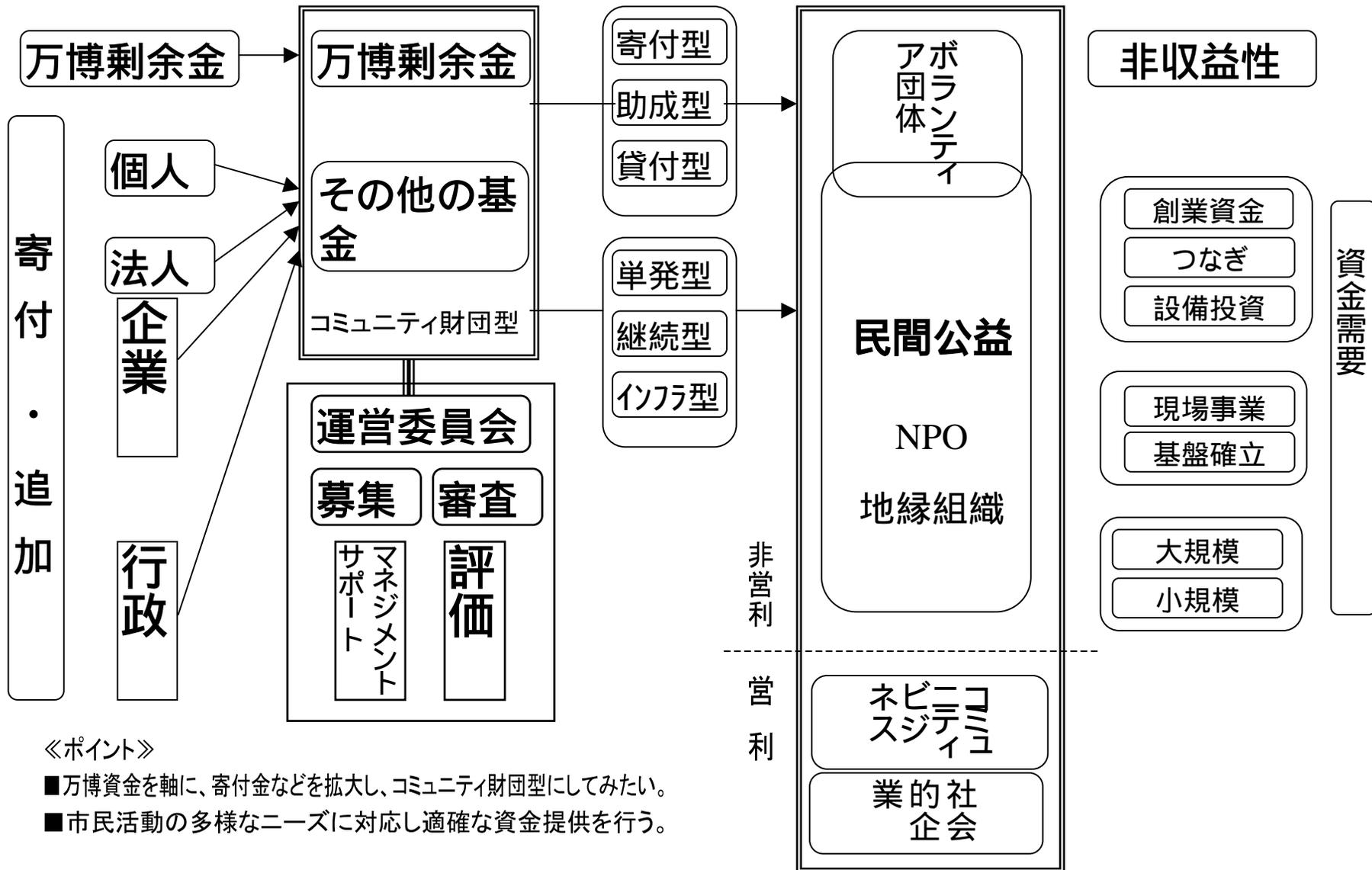


愛・地球博剰余金による市民活動支援基金の構図



《ポイント》

- 万博資金を軸に、寄付金などを拡大し、コミュニティ財団型にしてみたい。
- 市民活動の多様なニーズに対応し適確な資金提供を行う。

岐阜はつらつファンド

- 公益信託。5年目になる。
- 2005年古田知事時代から年間1億円、それ以前は、年間2000万円。毎年出捐。取り崩し型。折々(年度)に重点テーマ設定。
- 主たる事務所が岐阜県にあるNPO法人のみを対象に助成。
 - 法人設立準備事業 100万円
 - 立ち上げ時期助成 備品購入:50万円、事業:100万円
 - 展開時期助成 事業:500万円、つなぎ資金(利子助成)
 - 人材育成事業 20万円
- 事務局は銀行。当初、全業務を銀行が執行。途中から、NPO法人ぎふNPOセンターと一部事務局業務を委託契約。年間150万円
 - 内容:募集、受付、運営委員会運営、審査サポート、報告会、相談、問合せ。
 - 事業実施状況点検、指導はしない。(銀行が契約業務外と認識)
- 運営委員会(審査も行う)の構成。
 - NPO関係4名、学識者2名、税理士2名、銀行2名
 - NPO関係者は、当該委員が代表の団体は応募できない。